

外国出身の子ら対象 「寺子屋」開講5年

日本語習得へ支援拡大

日本語を母語としない県内在住の子どもたちを対象に、徳島市の市民団体が開いている講座「にほんご寺子屋」が、日本語学習を支援する場として定着している。開講から5年、徳島駅クレメントプラザ内のとくしま国際戦略センターで週1回開いている講座には多い時で10人程度が通う。地域と関わる課外学習にも乗り出し、サポートの幅を広げている。

「にほんご寺小屋」は2女らが受講している。009年3月、県内在 当初は月1回だった住外国人の支援活動に が、参加者の要望を受け取り組む市民団体「J けて11年6月から週1 TMとくしま日本語ネ 回に増やした。

「にほんご寺小屋」が初の子 就学半年前の幼稚園 ども向け講座として始 児から高校生までが対 めた。学校だけでは不 象。中国やフィリピン、 十分な日本語学習を支 米国など各国から訪れ 援。親の仕事の都合で た子どもたちにJTM 徳島に来た子どもや、 のボランティア講師が 両親のどちらかが日本 1対1で付き添い、さ 入て外国育ちの帰国子 まざまな教材を使って

職場体験 心のケアも

個人のレベルに合わせて 講座終盤には全体学 習を行い、同じような 指導を行っている。



開講5年の「にほんご寺子屋」。外国出身の子 どもが、日本語を学ぶ場として定着している くとくしま国際戦略センター

環境を持つ子ども同士 のコミュニケーション も図っている。中国出 身の張鵬君(17)は「徳島 中央高校1年」は「寺 子屋では、一緒に日本 語を頑張れる友達があ きた」と話す。

課外活動は12年に導 入し、職場体験や県内 の観光地巡りなどに取 り組んでいる。地域社 会での生きた日本語を 習得することはもちろ ん、将来の仕事に対す る意欲を育んだり、徳 島をよく知ってもらっ たりする工夫もしてい る。

JTMの兼松文子代 表は「語学はもちろん、異文化の中で頑張 る子どもの心のケアに も気を配っている。こ れからも彼らの精神的 な支えになるよう活動 していく」と話してい る。(乾栄里子)